

# 蜷川式胤「椎の落葉」

米崎清実 編著

定価一九、八〇〇円(本体一八、〇〇〇円+税一〇%)

A5判上製函入 本文六四八頁 口絵一六頁

ISBN 978-4-8055-0986-9 C3021

二〇二四年一〇月刊行



明治時代前期の古器旧物の調査や保護、博覧会の開催などを中心になって担った好古家蜷川式胤の日記「椎之落葉」全六巻の翻刻。

『観古図説―陶器之部』制作や、シーボルトやモーヌなど当時来日していた外国人との交流など、蜷川式胤の晩年の活動を知ることができる。本書は、歴史学や美術史、陶磁器の歴史など、幅広い研究分野の基礎資料である。

## 目次

権之落葉	
権之落葉 壹	三
権之落葉 貳	四
権之落葉 参	五
権之落葉 肆	六

## 解題

はじめに	
「権之落葉」について	
「権之落葉」の記事―旅行記	
「権之落葉」の記事―蜷川式胤をめぐる人々	
「権之落葉」の記事―「観古図説―陶器之部」の制作と陶器研究	
「権之落葉」の記事―博物館への資料寄贈	
おわりに	

## 編著者略歴

米崎清実（よねざき・きよみ）

一九五九年 東京都生まれ  
一九九一年 法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻博士課程単位取得満期退学  
東京都江戸東京博物館、東京都現代美術館、東京都写真美術館、武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館などで学芸員として勤務、現在は法政大学兼任講師  
〔主要著書〕  
『蜷川式胤「奈良の筋道」』（編著、中央公論美術出版、二〇〇五年）、明治維新史学会編『明治維新と歴史意識』（共著、吉川弘文館、二〇〇五年）

## 蜷川式胤について

蜷川式胤（一八三五〔天保六〕―一八八二〔明治一五〕）は江戸時代後期から明治時代前期の好古家である。

京都東寺の公人蜷川家に生まれ、岩倉具視の招聘により上京、明治政府に出仕すると、制度局取調御用掛、外務省編輯課、文部省博物館、内務省博物館などで業務にあたり、制度考証や博覧会の開催、社寺の宝物調査や古器旧物の保護に取り組んだ。一方、荒廃した旧江戸城の写真撮影を政府に申し出、横山松三郎と写真の撮影を行った。

蜷川式胤が携わった一八七二年（明治五）の主に近畿地方における社寺の宝物調査（壬申検査）に関する資料や旧江戸城写真ガラス原板などは国の重要文化財の指定を受けている。

一八七七年（明治一〇）に辞職して以降は、主に日本各地の陶器研究や『観古図説―陶器之部』の刊行に取り組んだ。交友関係においては幅広く、松浦武四郎、古筆了仲、柏木政矩、町田久成、神田孝平、高橋由一、横山松三郎、柴田是真、五姓田芳柳、亀井至一・竹二郎兄弟などの好古家、政府官僚写真家、美術家、さらには当時来日していたシーボルトやモース、キヨツソネ、ワグネルなどの外国人とも親交があった。蜷川式胤は、明治時代前期の今日という文化財行政や国際文化交流におけるキイパーソンだった。

## 関連書籍

### 蜷川式胤「奈良の筋道」

米崎清実 編著

「奈良の筋道」を筆録した蜷川式胤は好古家として著名であるが政府の実務官僚でもあった。彼の事蹟を明らかにすることは明治国家の形式過程や政府の文化行政を検証していくことと同様の意味をもつ。歴史学、美術史、文化財学など幅広い研究分野から待望されていた文化財調査の記録。

定価 14,300 円（本体 13,000 円＋税 10%）  
A5 判上製函入 本文 480 頁 口絵 1 丁 挿図 110 点  
ISBN 978-4-8055-0492-5 C3021 2005 年 2 月刊



### 蜷川式胤「八重の残花」

米田雄介 編

正倉院宝物殿の本格的調査研究の資料である、明治政府に出仕していた好古家蜷川式胤の日記「八重の残花」を翻刻、現存する正倉院所蔵の宝物とあわせて詳述する。正倉院宝物のみならず日本の文化財研究に広く貢献する一書。

定価 13,200 円（本体 12,000 円＋税 10%）  
A5 判上製函入 本文 316 頁 口絵 16 頁  
ISBN 978-4-8055-0853-4 C3021 2018 年 4 月刊



# 中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

website <https://www.chukobi.co.jp/>

お取り扱いは